

民団主催の運動会でテコンドー演武披露! 10月2日 県民運動公園スポーツ広場

毎年、この時期に開催される民団の運動会に、今年初めて県テコンドー協会から樋口清輝、武道館支部長を中心に熊本大学テコンドー部の12名が参加、プログラムの合間にテコンドーの基本、板割りなどのデモンストレーションを披露、会場からは大きな歓声と拍手がおくられた。また無料体験のコーナーでは、武道館支部の生徒がお手本を披露、体験希望者の子供から大人迄がテコンドーを初体験した。日韓の架け橋のスポーツとしてのテコンドーの役割は今後も大きいと言えるだろう。



民団運動会 演武

佐賀県協会・久保田道場との合同練習会開催! 11月23日 熊本学園大

県協会は選手強化の一環として、今回、佐賀県の久保田道場（古賀剛師範）との合同練習会を学園大で行った。

古賀剛師範は過去、全日本選手権、世界選手権等で日本代表として活躍した師範で、現在は故郷の佐賀県で指導にあたっている。

ロンドン五輪のアジア選考会へ道場生である（濱田真由）選手が出場するなど選手強化に熱心な先生、今回、全日本選手権で活躍する富安美絵選手等8名の選手が参加、県協会からは津田ひかる選手など約20名が参加して、3時間半に亘り練習を行った。

競技レベルが上がっている佐賀県との合同練習会、県選手にとっても実りある練習会だったようだ。



合同練習風景

高円宮記念日韓交流基金惜しくも顕彰ならず!

2002年日韓ワールドカップの年にお亡くなりになった高円宮様の意志を継ぐ日韓青少年、草の根活動を支援するための「一般財団法人高円宮記念交流基金」は、全国の日韓交流に熱心な諸団体を顕彰する事業を行っているが、今年、熊本県からは県国際課を通じて熊本県テコンドー協会を含む4団体が推薦された。

日韓の青少年交流にテコンドーを通じて1992年から現在までに大会、合宿、ホームステイ等、20年間に亘って交流した実績が認められ推薦候補となったが、11月27日、県国際課から「残念ですが、顕彰には至らなかった」との連絡が樋口会長にあった。全国から25団体が推薦を受け、4団体が顕彰団体となる。今年は12月中旬に東京で顕彰式典が行われるとの事。県協会惜しくも顕彰はならなかったものの、推薦候補に選ばれた事は評価されるべきだろう。これからの更なる交流に期待したい。

昇段、級審査に107名が集う! 12月4日 県民運動総合公園体育館

今年最後の昇段級審査会は、県内各道場、大学等から107名が参加して実施された。受験級毎に、基本動作、移動基本、プンセ、キョルギと熱心に取り組んでいた。

審査終了後、約1時間半に亘り選手強化委員の指導による合同練習会が行われた。



昇段級審査会風景



昇段級審査会風景

「坂本大晟」選手・富合町体協から表彰!

今年7月に開催されたJOCカップ全日本ジュニア選手権大会に中学生の部で3位に入賞を果たした富合支部の坂本大晟選手が、この度、熊本市富合町体育協会から表彰を受けた。坂本選手は、県選手権、九州大会等でも活躍する選手の一人、今後の更なる活躍を期待したい。



坂本大晟選手（富合中学校3年生）

理事、支部長合同会議開かる 12月4日

午前中からの昇段級審査会、合同練習会の終了後に、協会理事、支部長による合同会議が行われた。今年の事業の反省点、来年度の事業計画案等、約1時間半に亘り討議された。会議終了後には、懇親会を兼ねた忘年会が行われ今年の県協会事業を締め括った。

テコンドーくまもと Vol.36

TAEKWONDO KUMAMOTO 2011.9▶2011.12



全日本選手権入賞者の表彰

2011全日本学生選手権 津田ひかる・本田千尋のダブル優勝 中山北斗準優勝の学園大3名が入賞! 12月4日 東京駒沢オリンピック公園体育館



記念撮影

今年の全日本学生選手権大会は、東京駒沢オリンピック公園体育館に全国の大学から選手が参加して開催された。

熊本県協会からは5名の選手が出場し、女子-46kg級で津田ひかる選手、同じく女子-57kg級で本田千尋選手が優勝、男子-63kg級で中山北斗選手が準優勝する好成績を収めた。

2月の全日本選手権、8月の全九州選手権と負け知らずの津田ひかる選手だが、その貫禄を見せて大学生としても頂点となった。また全日本ジュニア大会では優勝へ後一歩だった本田千尋選手だが、今回、全日本のタイトルがつく今大会での嬉しい初優勝となった。

男子-68kg級に出場の中山北斗選手は、30名の出場選手がひしめく激戦階級の中にあつて決勝まで勝ち進み、決勝では大阪経法大の三橋選手に惜しくも敗れたが、昨年に続く準優勝は評価にあたいする。男子-54kg級に出場した神垣貴晶選手（熊本大）同じく-68kg級に出場して土師正稔選手（熊本大）の両選手は、初戦を勝利したものの共に2回戦で敗退した。

震災復興イベント 東日本オープン選手権大会開かる! 11月20日 福島国体記念体育館

今年3月、東日本を襲った千年に一度と言われる東日本大震災、その復興イベントとして福島県協会の武田正博先生が第16回東日本オープン選手権大会を開催した。福島県協会に於いても震災の影響で4つの道場が閉鎖に追い込まれる中、例年には及ばない人数とはなったが、宮城、山形、新潟、茨城、東京、兵庫、遠くは沖縄などから51名の選手が参加して熱戦を繰り広げた。

樋口悦夫県協会長も福岡テコンドーアカデミーの細江順一会長と開会式に出席、大会中も数度、軽い揺れがあるなど、まだまだ予断を許せない状況だが選手は真剣に試合に臨んでいた。熊本県協会からは県のキャラクターである人気の「くまモン」の携帯ストラップ等を参加全選手に記念品として贈った。武田理事長は、大会開催に迷いもあったが東北でのテコンドーの灯を消してはならないし、テコンドーから復興への力強い思いを伝えたかったと心境を語った。一日も早い東日本の復興を祈念したい。



試合風景



城南オープン・MVPに津田輝史朗選手! 9月18日 八代市鏡町武道館

第10回県城南オープン大会は城南地区の各道場とオープン参加の県内道場、大学から63名が参加して開催された。また今回は、鹿児島県、宮崎県からも選手が特別参加するなど、10回目にふさわしい大会となった。一般の部では共に優勝を飾った津田輝史朗選手、山頭正宗選手など久々の顔ぶれも健在をアピール、大会は盛り上がりを見せた。

※大会結果の詳細はホームページに掲載



試合風景

西日本地区大会県勢3名が全日本出場権を獲得! 10月2日 長崎市総合体育館

2012年全日本選手権の出場権のかかる西日本地区大会は、2日、長崎市で関西、九州地区から約120名が参加して開催された。県勢は男子-54kg級に津田輝史朗選手、-58kg級に神垣貴晶選手、-63kg級に中山北斗選手、女子-57kg級に本田千尋選手の4名が出場。津田輝史朗選手は決勝で藤崎選手(福岡)に1ポイント差で敗れたが、出場権を獲得。また、-63kg級の中山北斗選手も決勝に進出、内村嵐選手(福岡)に惜しくも敗れ2位に、本田千尋選手も決勝で兵庫の選手に敗れ2位となったが、3名共に決勝進出、3位内に与えられる全日本の出場権を獲得した。神垣貴晶選手は2回戦で長崎の選手に敗れ、出場権獲得はならなかった。復帰2戦目となった津田輝史朗選手だが、姉の津田ひかる選手と共に来年、初の姉弟での全日本に挑む。



試合風景



試合風景



開会式



記念撮影

県勢10階級中8階級で優勝! 第9回九州学生選手権大会 10月23日 九州大学箱崎キャンパス体育館

今年の九州学生選手権大会は九州各県11大学から94名が参加し、男子5階級、女子5階級の個人戦と団体戦で行われた。県勢は崇城大学、熊本大学、熊本学園大学から21名が出場し全10階級実施の中、8階級で優勝する好成績を収めた。

学園大の中山北斗、津田ひかる、本田千尋の全日本出場経験者の優勝もさることながら参加数最多(20名)の男子-54kg級で、県勢としてはただ一人の出場となった神垣貴晶選手(熊本大)が激戦を勝ち抜き見事に優勝を飾った。他、女子-49kg級の元満文音選手(熊本大)-62.67kg超級統合級で優勝した野口季咲選手(崇城大)など、新人女子の活躍も目立った。

技能賞に選ばれた土師正稔選手(熊本大)は、チルギ(突き)でのポイントを取る等、チルギも正確にヒットすれば得点に繋がることを改めて証明し、テコンドーの本筋を教えてくれたと言えるだろう。学生たちの頑張りに拍手を贈りたい。



試合風景



女子-46kg級 津田ひかる選手(左)



試合風景



技能賞 土師正稔選手



記念撮影

西田亮・木村暁V、奥村直矢準V! 第3回テコンドーシップうみがめ杯 10月30日 福岡県岡垣町サンリーアイ

※大会結果の詳細はホームページに掲載

岡垣町テコンドー連盟(植竹嘉孝会長)が主催する「テコンドーシップ・うみがめ杯テコンドー大会」は、九州各県から189名が参加し24階級で熱戦が繰り広げられた。

県協会からは、不知火支部のジュニア選手6名が出場、中学生男子重量級で西田亮選手、小学女子3・4年重量級で木村暁選手が優勝した他、小学5・6年男子重量級で奥村直矢選手が準優勝、小学女子5・6年重量級で西田尚選手、小学生3・4年男子重量級で永日純也選手がそれぞれ3位入賞を果たした。小学1・2年男子重量級に出場した木村沈暉選手は惜しくも2回戦で敗れた。オープン大会の「うみがめ杯」だが、全日本選手権、全日本ジュニア選手権の入賞者も出場しレベルの高い試合も多く見られ、特に佐賀県からは40名の選手が参加するなど、来年の九州大会に向けての意気込みを感じさせる大会となった。また、岡垣町テコンドー連盟の保護者が中心となり、隔々まで行き届いた運営で、大会はスムーズに進行した。九州各県の選手レベルは各オープン大会への積極的な参加などで一段と向上しており、県選手も更なる強化練習やオープン大会への積極的参加が、今後の選手強化に不可欠と言えるだろう。



中学生重量級 決勝



小学女子3・4年重量級 優勝 技能賞 木村暁選手



永日純也選手(赤)



奥村直矢選手(赤)



記念撮影

県ジュニア・MVPに原田大地選手(武道館支部) 11月20日 県民総合運動公園体育館

第14回県ジュニア選手権大会は、県内各支部道場から76名が出場して開催された。

園田幸二副会長の主催者挨拶に続き、津田佳輝常務理事よりテコンドー競技が来年度からの熊日学童五輪大会で実施されるとの報告の後、本年度の全日本選手権、全日本ジュニア選手権の入賞へ県協会からの表彰状が贈られた。

その後にブンセ競技から試合が行われ、県ジュニアチャンプを目指し熱戦が繰り広げられた。



個人ブンセ7級以下の部



中学男子・高校男子合同級決勝

樋口会長、韓国身障者大会へ出席! 9月15日 韓国・国技院



第2回全国秋季身障者・健全者テコンドー選手権大会は、この程、国技院で約1,200名が集い盛大に開催された。この大会は、身障者と健全者が共に参加する大会で、初日は身障者による「基本動作」「ブンセ」「キョルギ」等の種目が行われた。

開会式では、全盲の選手による団体ブンセが披露され、正確で、息の合った演武に一時、会場内がシーンとなり、とても身障者とは思えない演武に会場からは、多くの拍手が贈られた。16日からは、健全者のキョルギが行われたが、豊生高からも選手が出場、留学中の西村純選手も17日に出場した。韓国では、このような身障者のテコンドー大会も開催されていて、テコンドーを通じての健全者との交流が活発に行われている。

聴覚障害者による板割り演武